

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ②ライフ分野(8/10)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ 目標に向けた取組の進捗	Ⅱ 支援措置の活用と地域独自の取組の状況	Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
群馬がん治療技術地域活性化総合特区(群馬県)	3.8	4.3 進捗度 ・医療・ヘルスケア産業振興189% ・事業化人材の育成164% ・医療系人材の育成161% 等	3.3 規制の特例等 ・高精度重粒子線がん治療技術開発事業 財政支援等 ・戦略的基盤技術高度化支援事業 ・総合特区支援利子補給金 地域独自の取組 ・医療機器・介護機器等事業化支援補助金 ・医療・ヘルスケア関連事業化支援補助金 等	3.8	・補助金、コンサルティング、情報共有サイトの運営などにより、臨床ニーズを汲んだ医療機器開発のプラットフォーム形成に尽力し、成果を挙げていることは評価できる。 ・財政的支援の増額をはじめ、多様な人材育成の事業展開がなされたこともあって、新規雇用者創出数にも成果が生み出されている点が評価される。 ・がん医療にかかる「医療産業拠点」の形成のための総合的な取組である。財政・税制・金融支援の活用を進める具体的な工夫があると思われ。 ・評価指標(1)から(4)の全ての指標において、前年度と同程度またはそれ以上の成果をあげている点が高く評価できる。数値目標(1)「治療実施症例数」は、目標達成に向けた進展がみられた。「医療産業拠点」の形成に向け、継続的な成果を期待したい。 ・当初の事業である重粒子線治療やがん医療との連携が今後促進されることに期待したい。 ・数値目標において疑問が残される課題と思われる。数値目標に対する高めの達成度として報告されているが、そもそもの目標設定値の妥当性について議論が必要と思われる。 ・重粒子線治療の実施目標値が低すぎる。令和2年度実績2例については、この2例に対する自己評価として特区及び本事業の実施主体の意見を聞いてみたい。計画書では世界最先端とアピールしておきながら、年間2例では説明がつかないと思われる。 ・医療系人材についても、計画書には放射線治療に携わる人材不足が説明されているが、人材育成人数としては十分とはいえない。特に放射線腫瘍医、医学物理士の育成については方向性見直しが必要と思われる。